



てきおう 4. まちに適応したいきもの



まちの環境は多くのいきものにとって危険が多く、食べ物も少ないなど、決してよい環境とはいえません。ところが、このような過酷な状況をうまく利用して、逆にまちなかで増えているいきものもいます。人の気配のあるところで子育てをして、人に外敵を追い払ってもらったり、人の食べ残しを利用したり、いきものの意外な一面を観察してみましょう。

てきおう しょうかい ■ まちに適応したいきものや植物を紹介します。

◎ カササギ



(財)九州環境管理協会

カササギは、九州北西部の佐賀平野・筑紫平野を中心とした狭い地域にかぎられていましたが、糸島市や福岡市西部にまで少しずつ生息域を増やしています。春日市でも、市南東部の平田台を中心に目撃されており、1月～3月頃には電柱への営巣（九州電力が巣立ちまで管理）も見るすることができます。

◎ タンポポ



タンポポは明治時代に日本に持ち込まれた外来種と、日本に古来から生育していた在来種があります。

外来種は年中花が咲き、花粉がつかなくても種子ができます。また乾燥した過酷な場所でも生育します。一方、在来種は春にしか花が咲かず、受粉しなければ種子ができません。また都市部の環境にはあまり適応できないため、春日市で見られるタンポポは、ほぼ外来種です。

◎ その他、人の近くで生活するいきもの

■ ツバメ



(財)九州環境管理協会

■ スズメ



(財)九州環境管理協会

■ ドバト



(財)九州環境管理協会

